

## 協会けんぽ大分支部 ジェネリック医薬品使用状況について

---



## ■ 全国健康保険協会(協会けんぽ) 大分支部の概況

◆ 加入者数 : 424,950人 (平成30年3月末現在) ※大分県民全体の約37%を占める  
(被保険者数 247,767人 被扶養者数 177,183人)

◆ 加入事業所数 : 20,526事業所 (平成30年3月末現在)

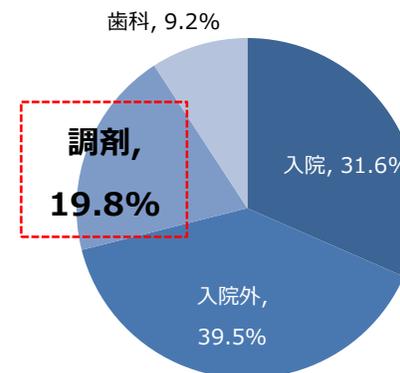
◆ 加入者一人当たり医療費 : 178,024円 (平成28年度) ※全国で8番目に高い

◆ 平成26年度～28年度の大分支部の医療費の状況

単位：千円

	平成26年度	平成27年度	伸び率	平成28年度	伸び率
入院	22,024,680	23,541,308	6%	24,022,857	2%
入院外	27,983,307	29,253,728	4%	30,021,068	3%
調剤	13,562,514	15,513,879	13%	15,040,331	-3%
歯科	6,754,736	6,911,944	2%	6,980,544	1%
計	70,325,237	75,220,859	7%	76,064,800	1%

◆ 平成28年度大分支部の医療費に占める調剤医療費 (院内処方を除く) の割合



【参考】加入者数の伸び 平成26→27年度 1.2%、平成27→28年度 0.9%

※診療報酬明細書 (レプト) の点数の10倍の医療費。患者負担分を含む。(出典：協会けんぽ月報)

- ・平成28年度の総医療費に占める調剤医療費 (院内処方を除く。以下同じ) の割合は19.8%であり、総医療費の約2割を占めている。平成26年度、27年度についても調剤医療費が総医療費に占める割合は2割程度となっており、この傾向は協会けんぽ全体の医療費における調剤医療費の割合と同様となっている。
- ・平成26年度から27年度の調剤医療費は13%と高い伸び率となっているが、これは肝炎新薬の影響が一因である。

## ■ 大分支部のジェネリック医薬品使用割合の状況

### ◆ ジェネリック医薬品使用割合

※新指標、平成30年2月末現在の速報値

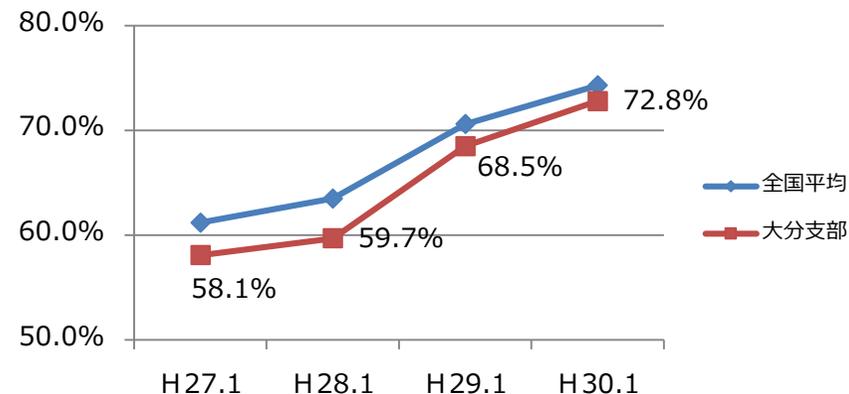
大分支部	全国順位	(全国平均)
<b>73.3%</b>	<b>37位</b>	(74.6%)

【(参考)九州管内の状況】※平成30年2月末現在の速報値

	切替率	全国順位
福岡	74.8%	26位
佐賀	76.8%	10位
長崎	75.8%	18位
熊本	75.8%	18位
宮崎	77.9%	4位
鹿児島	81.2%	2位
沖縄	84.3%	1位

【(参考)大分支部と全国平均の使用割合経年変化】※各年1月末の比較

	H27.1	H28.1	H29.1	H30.1
大分支部 (全国順位)	58.1% (40位)	59.7% (43位)	68.5% (39位)	72.8% (37位)
全国平均	61.2%	63.5%	70.6%	74.3%
全国との差	-3.1	-3.8	-2.1	-1.5
対前年同期差 (全国順位)	8.9 (30位)	1.6 (40位)	8.8 (1位)	4.3 (5位)



- ・協会けんぽ大分支部の使用割合の状況は平成30年2月末で73.3%、全国順位にして37位と低迷している。
- ・対前年比はプラスの伸びであり、伸び率の全国順位は平成29年1月末で全国1位、平成30年1月末で全国5位という結果になっている。

# ■ ジェネリック使用割合の比較（薬効分類別） ※全国平均との差

単位：%ポイント

年 月	薬効分類														
	中枢神経系用薬11	循環器官用薬21	呼吸器官用薬22	消化器官用薬23	抗がん剤（抗がん剤を含む。）24	外皮用薬26	ビタミン剤31	血液・体液用薬33	その他の代謝性医薬品39	腫瘍用薬42	アレルギー用薬44	抗生物質製剤61	化学療法剤62	その他	
平成29年															
4月	-1.9	-3.2	-0.3	-3.1	-0.5	0.3	-3.1	-1.1	-1.9	-2.3	-8.8	-1.2	-1.7	-8.4	-4.4
5月	-1.8	-3.8	0.1	-2.8	-0.3	-1.1	-2.9	-1.0	-1.9	-2.2	-1.8	-1.0	-2.6	-6.3	-3.7
6月	-1.8	-3.7	-0.3	-1.8	-0.5	0.7	-3.0	-0.1	-1.8	-2.9	-3.9	-0.9	-1.9	-6.4	-2.9
7月	-1.9	-4.4	0.2	-3.4	-0.8	1.2	-3.5	-0.5	-1.7	-1.6	-2.8	-0.1	-3.2	-7.2	-4.4
8月	-1.8	-3.9	0.2	-2.9	-0.4	1.0	-3.0	-0.9	-1.7	-2.1	-0.7	-0.1	-2.8	-7.1	-4.4
9月	-1.8	-4.2	0.1	-2.3	-0.3	1.8	-3.1	-0.8	-2.0	-3.0	-2.0	-0.1	-2.9	-7.2	-3.5
10月	-1.6	-3.7	-0.1	-2.2	-0.6	0.1	-2.3	-0.6	-1.8	-1.7	1.7	0.5	-1.4	-6.9	-3.6
11月	-1.7	-3.8	-0.1	-2.6	-0.2	1.1	-2.9	-1.2	-1.3	-1.4	-0.5	0.1	-2.3	-8.6	-3.5
12月	-1.6	-2.7	-0.2	-2.2	-0.6	1.6	-3.5	0.0	-1.0	-1.3	1.3	0.3	-3.1	-5.8	-3.5
1月	-1.5	-1.7	0.3	-1.9	-0.5	0.8	-3.4	-0.6	-1.7	-2.4	-7.6	-0.3	-3.3	-4.8	-3.2
2月	-1.3	-3.0	0.6	-3.0	-0.4	2.7	-3.0	-0.9	-1.0	-0.9	2.3	0.2	-1.9	-7.1	-4.1
平均	-1.7	-3.5	0.0	-2.6	-0.5	0.9	-3.1	-0.7	-1.6	-2.0	-2.1	-0.2	-2.5	-6.9	-3.7
構成割合の平均（単位：%）	15.1	19.6	8.2	17.3	0.4	8.4	3.0	6.3	7.0	0.3	6.8	3.1	1.0	3.4	

- ・平成29年4月から平成30年2月までの薬効分類別の使用割合の全国平均との差と大支部における構成割合（数量ベース）の平均をまとめた表。
- ・全国平均と最も差の乖離が見られるのは「化学療法剤」であり、全国平均と6.9%ポイントの差があるが、数量の構成割合ではわずかに1.0%となっており、全体への影響度は低い。
- ・続いて使用割合が全国平均を下回っているのは、「中枢神経系用薬」「呼吸器官用薬」「外皮用薬」である。これらは構成割合でも上位を占めている。
- ・構成割合が最も高い「循環器官用薬」は、月によりばらつきはあるものの、全国平均と同等の使用割合となっている。

注1. 協会けんぽ（一般分）の調剤レセプト（電子レセプトに限る）について集計したもの（算定ベース）。

注2. 加入者の適用されている事業所所在地の都道府県毎に集計したもの。

注3. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注4. 薬効分類名の前の数字は、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠した分類番号

注5. 「新指標」は、[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

## ■ ジェネリック医薬品使用割合の比較（年齢階級別） ※全国平均との差

単位：%ポイント

年月	加入者の年齢階級															
	0～ 4歳	5～ 9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70歳 ～	
平成29年																
4月	-2.6	0.5	1.5	-1.0	-3.2	-4.1	-5.1	-3.1	-3.3	-2.7	-2.9	-2.5	-1.1	-0.8	-1.4	
5月	-3.6	-1.1	2.4	-1.5	-3.7	-3.1	-4.8	-3.5	-3.9	-2.3	-2.7	-1.9	-1.5	-0.2	-1.2	
6月	-1.8	-0.4	1.2	-1.4	-2.6	-3.7	-2.9	-3.3	-3.6	-2.7	-2.2	-1.8	-1.7	-0.7	-2.0	
7月	-2.4	0.0	3.2	-3.9	-3.7	-2.4	-3.7	-4.5	-4.1	-3.2	-3.0	-1.7	-1.4	-0.3	-1.8	
8月	-3.0	0.9	2.0	-0.5	-4.7	-4.8	-3.1	-3.2	-3.6	-2.3	-3.8	-1.4	-2.1	0.1	-0.9	
9月	-2.5	0.3	3.3	-3.0	-3.7	-4.1	-4.5	-3.3	-2.5	-3.1	-3.1	-1.2	-1.8	-0.8	-1.9	
10月	-1.8	2.0	2.9	-1.0	-2.1	-3.7	-4.2	-3.8	-3.9	-2.7	-3.2	-1.0	-1.6	0.1	-2.1	
11月	-1.7	0.8	3.6	-1.7	-3.3	-3.1	-4.6	-3.9	-3.4	-2.0	-3.1	-1.4	-1.7	-0.4	-1.6	
12月	-1.9	1.7	2.8	-0.6	-2.4	-3.7	-3.1	-3.5	-2.4	-2.8	-2.3	-1.6	-1.5	-0.4	-1.7	
1月	-3.4	0.9	3.5	0.2	-1.9	-3.5	-3.7	-3.1	-2.2	-2.9	-2.3	-0.7	-1.9	-0.2	-0.8	
2月	-3.1	1.2	2.2	-1.3	-0.4	-2.4	-3.6	-2.8	-2.9	-2.7	-2.7	-1.4	-1.4	0.6	-0.3	
平均	-2.5	0.6	2.6	-1.4	-2.9	-3.5	-3.9	-3.5	-3.3	-2.7	-2.8	-1.5	-1.6	-0.3	-1.4	
構成割合の平均	4.3	3.1	2.4	2.1	2.1	2.8	3.9	5.1	7.0	8.2	9.1	12.3	15.2	14.2	8.4	

- ・平成29年4月から平成30年2月までの年齢階級別の使用割合の全国平均との差と大分支部における構成割合（数量ベース）の平均をまとめた表。
- ・年齢階級別では特に20代～40代の切り替え割合が全国平均と比較して低い状況となっている。
- ・また年齢階級別の数量の構成割合は50代～60代が全体の約半数を占めている。

注1. 協会けんぽ（一般分）の調剤レセプト（電子レセプトに限る）について集計したもの（算定ベース）。

注2. 加入者の適用されている事業所所在地の都道府県毎に集計したもの。

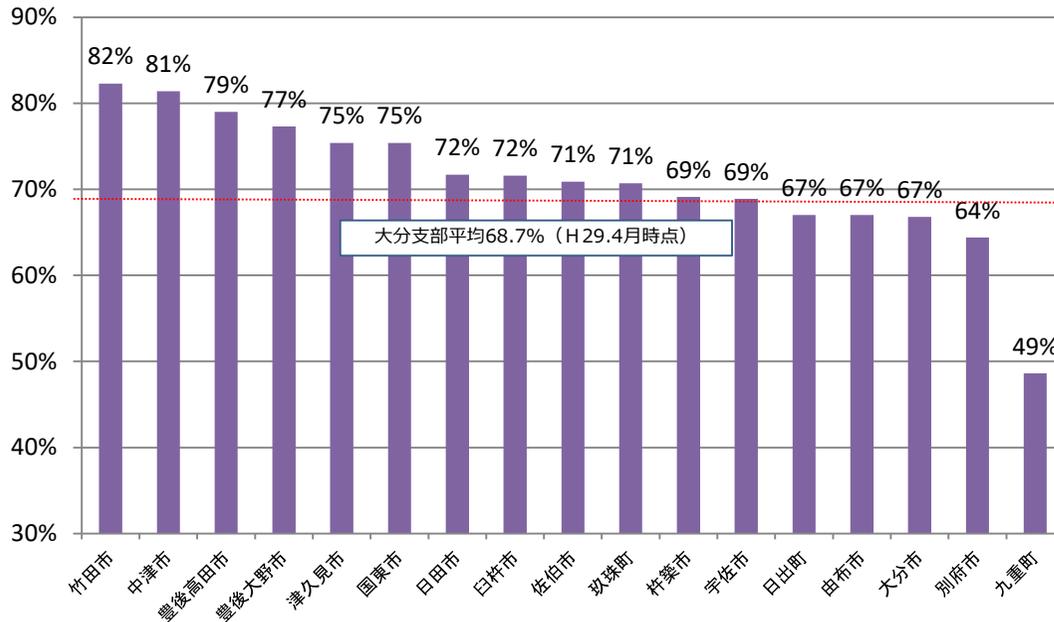
注3. 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

注4. 薬効分類名の前の数字は、「日本標準商品分類」の「中分類87-医薬品及び関連製品」に準拠した分類番号

注5. 「新指標」は、[後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出している。医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

## ■ ジェネリック医薬品使用割合の比較（市町村別）

市町村別の使用割合



市町村名	調剤薬局数	全体数量	後発あり先発品数量	後発品数量	後発品割合 (新指標)
大分市	216	7,650,454	1,633,856	3,286,286	66.80%
別府市	68	1,990,452	450,554	813,408	64.40%
佐伯市	28	922,713	181,910	442,169	70.90%
日田市	33	837,381	153,864	389,530	71.70%
宇佐市	27	712,919	149,548	331,277	68.90%
豊後大野市	21	495,207	72,663	247,201	77.30%
由布市	18	454,662	94,011	191,084	67.00%
臼杵市	18	328,209	59,963	151,008	71.60%
杵築市	12	295,770	60,662	135,742	69.10%
日出町	11	285,314	61,754	125,522	67.00%
中津市	28	260,406	32,338	141,866	81.40%
国東市	14	229,801	35,354	108,193	75.40%
竹田市	8	161,860	18,660	86,486	82.30%
津久見市	7	140,852	23,331	71,542	75.40%
豊後高田市	8	107,738	16,227	61,195	79.00%
玖珠町	5	78,544	14,286	34,453	70.70%
九重町	2	36,333	12,708	12,031	48.60%
合計	524	14,988,615	3,071,687	6,628,992	68.30%

- ・調剤薬局所在地別の使用割合を比較すると、竹田市、中津市、豊後高田市の順で切り替え割合が高くなっている。
- ・全体の使用数量では、大分市、別府市の順で高く、この2市で全体の約64%を占める。

※調剤薬局の所在地に基づき、集計したもの。

※集計対象は、2017年4月分である。

※数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。但し、経腸成分栄養剤、特殊ミルク製剤、生薬、漢方を除く。

※医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」による。

## ■平成30年度 大支部のジェネリック医薬品使用促進事業

### 施策1 ジェネリック医薬品軽減額通知サービス①

#### ジェネリック医薬品軽減額通知とは？

ジェネリック医薬品に切り替えた場合に、お薬代の負担軽減が一定額以上見込まれる方に、**1ヶ月分の自己負担額軽減可能額等**をお知らせするものです。

協会けんぽでは、**加入者の皆さまのお薬代の負担軽減が図られる**ほか、**健康保険財政の改善にもつな**がることから、「ジェネリック医薬品」の普及を推進しており、その取組みの一環として、ジェネリック医薬品軽減額通知を実施しています。

#### 平成29年度実施内容

##### ■通知対象条件

- ・慢性疾患（リウマチ、喘息）、生活習慣病（糖尿病、高血圧症）の治療薬を始めとする、長期間（14日以上）継続して服用することが考えられる医薬品を対象。  
ただし、がん治療薬、精神疾患治療薬、HIV治療薬、ジキタリス製剤を除く。
- ・対象年齢は20才以上の加入者
- ・調剤分の通知対象基準（軽減可能額）を医科：600円以上、調剤：50円以上。

平成30年度についても平成30年8月と平成31年2月に実施予定

# ■平成30年度 大分支部のジェネリック医薬品使用促進事業

## ジェネリック医薬品軽減額通知サービス②

### 【通知書】

見本

お問合せ番号: XXX-XXX-XXXX

**ジェネリック医薬品をお使いいただくと  
あなたの窓口負担額を減らすことができます**

**1** 平成29年 4月 に処方されたお薬のうち、以下の医薬品をジェネリック医薬品に変更した場合

**2** お薬代の軽減可能額  
5,350円～

平成29年 4月 診療分で処方されたお薬(先発医薬品)			ジェネリック医薬品に変更することで軽減できるお薬代
医療機関/薬局	お薬名	お薬代(お薬代)	
薬局	〇〇〇〇錠10 10mg	5,690	2,710～
	〇〇〇〇〇点眼液(0.1%)	1,850	
医療機関	〇〇〇〇〇テープ100mg	870	260～
	〇〇〇〇〇テープ40mg	2,490	820～
	〇〇〇〇〇テープ20mg 7cm×10cm	1,230	430～
<b>4</b> 合計		12,130	<b>2</b> 5,350～

この「お知らせ」は、ジェネリック医薬品への変更をご検討いただく際の参考としてお送りしているものであり、必ずしもジェネリック医薬品に変更していただかなければいけないものではありません。

**5** **【注意事項】必ずお読みください。**

- 処方されたお薬によっては複数のジェネリック医薬品が存在するため、この「お知らせ」に記載している金額と異なる場合があります。この「お知らせ」に記載された金額は目安としてご利用ください。

- この「お知らせ」は医療機関・薬局からの請求データに基づいて作成しています。軽減できる金額の大きいものから順に表示しており、多くのお薬を処方されている場合、記載しきれないこともあります。
- ジェネリック医薬品に変更するためには医療機関が作成した処方箋が必要です。

**1 処方年月**  
この月に処方されたお薬で、軽減可能額の試算を行っています。

---

**2 お薬代の軽減可能額**  
ジェネリック医薬品に変更することで軽減できる1か月のお薬代の目安です。  
※お薬代以外の診療等に変更する費用は含まれていません。

---

**3 お薬名**  
軽減できるお薬代が高いものを最大で8種類記載しています。

---

**4 お薬代**  
ジェネリック医薬品に変更する前の1か月のお薬代です。  
※お薬代のみを記載していますので、お支払いになった金額とは異なります。

---

**5 注意事項**

## ■平成30年度 大分支部のジェネリック医薬品使用促進事業

### ジェネリック医薬品軽減額通知サービス③

#### ジェネリック医薬品への切り替えによる効果（全国）

平成28年度に実施した通知サービスでは、約154万人の加入者の方がジェネリック医薬品に切り替え、医療費の削減額は、**年間270.0億円（単純推計）**であった。

また、平成21年度から28年度まで（8年間）の軽減効果額の累計は、**約873億円（単純推計）**。

※平成27年度以降の状況

年度	通知条件	送付件数	切替人数	切替率	軽減効果額（月）	軽減効果額（年）※
27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 35歳以上の加入者</li> <li>▶ 軽減効果額は医科600円以上、調剤100円以上</li> </ul>	約375万件	約107万人	28.60%	約15.7億円	合計188.5億円
28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 20歳以上の加入者</li> <li>▶ 軽減効果額は医科600円以上、調剤100円（2回目は50円）以上</li> <li>▶ 対象診療月を従来の1ヶ月分から 2ヶ月分に拡大</li> </ul>	約610万件	約154万人	25.20%	約22.5億円	約270.0億円
29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 20歳以上の加入者</li> <li>▶ 軽減効果額は医科600円以上、調剤50円以上</li> <li>▶ 対象診療月は2ヶ月分</li> </ul>	【1回目】 約358万件	約98万人	27.40%	約15.6億円	約187億円
		【2回目】 約345万件				

平成30年2月発送  
効果測定は平成30年8月頃、公表予定

※軽減額（月）×12か月（単純推計）

## ■平成30年度 大分支部のジェネリック医薬品使用促進事業

### ジェネリック医薬品軽減額通知サービス④

#### 大分支部におけるジェネリック医薬品への切り替えによる効果

	1回目通知				2回目通知			
	通知件数	軽減効果人数	切替率	軽減額/月	通知件数	軽減効果人数	切替率	軽減額/月
平成21年度	17,988	4,961	27.6%	7,122,418				
平成22年度	7,148	1,627	22.8%	1,705,164				
平成23年度	10,493	2,594	24.7%	2,970,589	5,354	1,434	26.80%	2,032,290
平成24年度	11,720	3,214	27.4%	3,913,099	3,237	848	26.20%	1,062,046
平成25年度	15,628	4,045	25.9%	5,181,265	5,816	1,681	28.90%	2,396,108
平成26年度	19,679	5,597	28.4%	7,924,465	19,686	5,146	26.10%	6,488,077
平成27年度	22,169	6,506	29.3%	8,553,532	24,163	7,081	29.30%	9,817,268
平成28年度	31,742	8,569	27.0%	12,307,975	34,752	8,986	25.90%	11,827,862
平成29年度	36,621	10,386	28.4%	15,156,622	34,842	平成30年8月頃公表予定		

	通知件数	軽減効果人数	切替率	軽減額/年
<b>累計</b>	<b>229,575</b>	<b>62,289</b>	<b>27.1%</b>	<b>999,625,896</b>

○平成21年度から平成28年度までの累計（人数はのべ人数）

○軽減額/年：軽減額（月）×12ヶ月（単純推計）

平成21年度から28年度まで（8年間）の軽減効果額累計は **約10億円（単純推計）**。  
また、平成21年度から28年度までの切替率は27.1%であった。

## ■平成30年度 大分支部のジェネリック医薬品使用促進事業

### ジェネリック医薬品軽減額通知サービス⑤

大分支部におけるジェネリック医薬品への切り替えによる効果（年齢、軽減通知額別）

平成29年度 第1回目通知結果		軽減通知額					大分支部合計	全国平均
		50～299円	300～399円	400～499円	500～999円	1000円以上		
年齢階層	20～24歳	14.4%	10.8%	14.9%	18.7%	25.3%	15.7%	16.1%
	25～29歳	14.5%	10.8%	24.1%	15.6%	20.0%	15.4%	17.8%
	30～34歳	15.2%	19.6%	22.0%	19.9%	26.8%	17.8%	18.7%
	35～39歳	16.6%	26.1%	16.9%	24.8%	34.0%	21.0%	19.8%
	40～44歳	17.5%	24.0%	22.1%	27.4%	30.0%	22.2%	22.0%
	45～49歳	20.3%	22.8%	26.9%	30.9%	31.4%	25.5%	24.8%
	50～54歳	24.0%	29.2%	27.7%	32.3%	31.1%	28.5%	28.0%
	55～59歳	27.2%	34.3%	30.9%	33.9%	32.1%	31.1%	30.1%
	60～64歳	30.9%	33.3%	29.7%	36.8%	32.4%	33.2%	31.8%
	65～69歳	31.9%	37.8%	36.0%	35.6%	39.4%	35.8%	33.4%
	70歳以上	32.3%	37.0%	34.3%	37.1%	32.6%	34.2%	33.5%
大分支部合計		23.1%	29.8%	28.5%	32.5%	33.0%	28.4%	27.4%
全国平均		22.9%	28.0%	26.9%	31.3%	30.2%	27.4%	

- ・軽減通知額別では、すべての区分で全国平均を上回っている一方、35歳未満の年齢階層では、いずれも全国平均を下回る切り替えにとどまっている。
- ・年齢層が高く、軽減額が大きいほど、切替率も上がっている。

注1) 評価対象データは、2017年3月・4月（軽減効果の高い診療月を基準月とする）および2017年9月（比較月）診療分の医科外来レセプト、調剤レセプトを対象とする。

注2) がん薬、精神疾患薬、注射薬、及びレセプトの診療識別コードが投薬以外に該当する医薬品は評価対象から除外する。

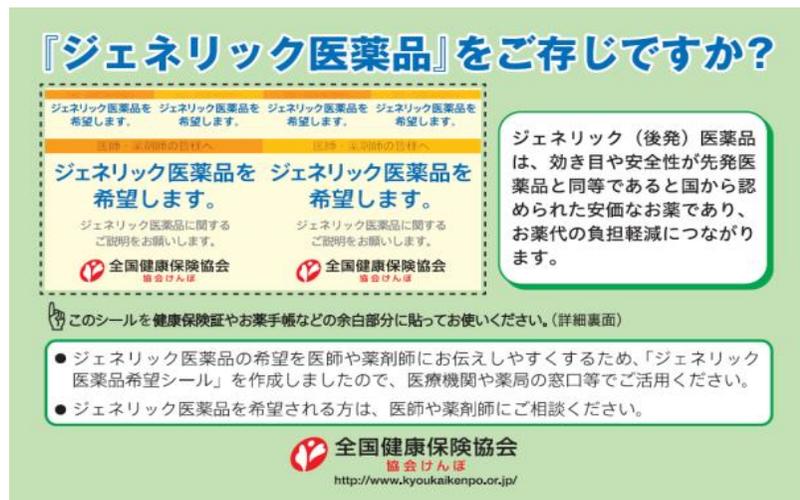
注3) 先発品には後発のない医薬品、及び先発品と同額又は薬価が高いために「診療報酬において加算等の算定対象となる後発品」とはみなされない医薬品を含む。

注4) 年齢は、通知書送付用の加入者マスタ抽出日時点とする。

# ■平成30年度 大分支部のジェネリック医薬品使用促進事業

## 施策2 ジェネリック医薬品希望シールの配布

### ●ジェネリック医薬品希望シール（見本）



- ・ 各種説明会で配布
- ・ 大分県薬剤師会を通じ、調剤薬局へ設置
- ・ 新規適用事業所へ郵送

## 【その他の施策】

- ・ 健康保険委員研修会での使用促進ミニセミナー開催
- ・ 事業所への訪問時やイベントの機会を利用した小冊子の配布
- ・ 定期広報誌、メールマガジンでの広報
- ・ 調剤薬局へ切替状況に関するお知らせを送付

